

# 電磁波による生物生体に対するミコフ式・環境療法の研究（第二報）

石井 猛<sup>1</sup>, 木村 碩志<sup>2</sup>, 岡田 敏彦<sup>3</sup>, 延原 玲子<sup>3</sup>, 山村 勲<sup>4</sup>

<sup>1</sup>加計学園・岡山理科大学・玉野総合医療専門学校、<sup>2</sup>環境・健康研究所

<sup>3</sup>ミコフ環境科学研究所、<sup>4</sup>にっこり商研

## 1. はじめに

先の第一報では、電磁波による一般的な概要について報告した。今回は、著者ら専門的な立場から報告して見たい。

著者の一人の石井は、環境汚染を予測した研究：即ちノーベル賞の技法を導入したポーラログラフ法による『交流ポーラログラフ法による加硫ゴム並びにガソリン中の微量元素の分析化学的研究』について、研究し、工学博士を授賞された。この研究を更に生かし、兵庫県公害研究所にて、光化学反応による有害因子生成に関する研究に取り組み、生体影響に関する研究に成功した。そしてその成果が認められて、岡山理科大学に全国で私立大学で最初に開設された環境化学科の教授として昭和 50 年 4 月に 40 歳で依嘱され赴任した。

それ以来、岡山県内の環境化学全般の研究並びに調査に専念した。更に世界の環境研究に邁進した。その理念は、図 1 に示されるような専門の化学を中心とした環境化学であり、加計学園並びに岡山理科大学創始者・加計勉理事長の理念でもある・学際領域の研究でもある。

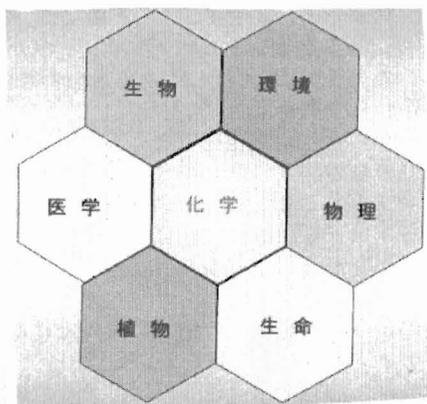


図 1 GELENTOLOGY（長寿学）研究の概念図

図 1 に、今、著者の一人の石井は、現在・加計学園・岡山理科大学・玉野総合医療技術専門学校において生物物理学を講義している。この生物物理学の講義は、全国に看護学校は 500 数校と数多くあるが、石井が講義している当玉野総合医療専門学校のみである。それは初代・校長・金政泰弘教授（岡山大学医学部名誉教授・医学博士）の発想で、医学を専門と

する看護師（以前は看護婦、それが看護師となり、現在では看護師となっている）には、生物を主体として化学と物理の関連性について講義が必要であることからこの講義を実に楽しく教授している。いずれにしても、私達の身近な問題：即ち健康問題を真剣に考える事は必要であろう。周知のごとく、戦後、私達の身の回りには様々な環境汚染問題が起こって来ている。

日本は有り難くない世界に誇る公害国家と言われ、英語で『POLLUTION』と言わなくても、日本語で『公害』と言っても、日本語で世界に通じると言う著者らの環境化学を研究する学者にとっては、大変残念なことである。

以上のような観点から、日本には昭和 40 年に、公害対策基本法が環境庁で発布されて以来、大気汚染、水質汚濁問題等、更に、農薬食品汚染について、国の対策として、厳しく汚染対策が講じられ、安心して生活出来ている現在である。

しかし、第一報でも報告したように、電磁波については、日本には全く規制基準がない状態である。でも海外に電化製品を輸出する場合には、非常に厳しい数値の、2.5 mG 以下と言う規制基準である。したがって、アメリカ、ヨーロッパ等、海外では、真剣な問題であるが、残念ながら、日本人は殆ど関心はない状態である。

そこで、著者らは、真剣に取り組み、『皆様元気で長寿：GELENTOLOGY の研究：暮らしの中の電磁波の研究』について、詳細に報告する。

## 2. 電磁波による生物生体に対する影響

電磁波の理論については、1864 年にマックスウェル（J. C. Maxwell）が、有名なファラデー（F. Faraday）の概念を数学的に展開し、電磁波理論を確立して電磁波の速度が光の速度と一致することを理論的に導いたが、その後、1888 年にヘルツ（H. R. Hertz）による電波の発見に伴い、この理論の正しいことが実験的に確かめられた。

我々が住んでいるこの地球には、周波数の異なる多数の電磁波が存在している。太陽から降り注がれている電磁波、星からの電磁波、通信に利用されている電磁波、電力線から発生する電磁波などさまざまである。図 2 に地上に存在するさまざまな電磁波を示す。

したがって、われわれは日常、電磁波にさらされた生活を営んでいる。もちろん電磁波の恩恵を受け



に影響があるのではとないかと言われ、是非とも共同研究をと依頼され、又著者の一人・石井も以前からこの電磁波の研究に取り組んでいるので、今がチャンスだと想い共同研究に導入した原因でもある。

#### 4. 電磁波に対する現在の対処方法

以上、報告したように、電磁波が健康を脅かす問題についての単行本は数多く出版されているが、それでは、どうしたら、その問題を解決したらよいかについては殆ど研究されていないのが現状である。

著者の一人の石井は約50年前から環境汚染問題に取り組み、その環境問題の重要性を研究し、更にそれではどうしたら、それらの問題を解決することが出来るかについて研究して来ている。

それらの解決方法の一つとして、環境汚染の中で、健康で長寿できる研究・即ち：温泉と名水との研究として、岡山県を一周して『岡山の温泉』、『岡山の名水』を出版、引き続き、世界中を一周して『世界の温泉』並びに『世界の名水』を出版して成果を得て来ている。

更に日本遠赤外線応用研究会を昭和60年4月1日に設立し、一年後に日本遠赤外線応用研究会の所長を拝命：現在も尚、日・韓国並びに日・中国の国際シンポジウムを毎年、日本・韓国・中国と開催し、国際研究を続行して来ている現在である。

そしてそれらの解決方法の一つとして研究して来た、先の『遠赤外線による魚の成育に関する考察』について報告、更に『電磁波による生物生体に対するミコフ式・環境療法の研究(第一報)』を報告した。

今回は、私達、日本及び日本人を救う夢の技術と考えられる研究を目的とし、真剣に色々と文献調査し研究した。

それは、先に述べたように、日本における電磁波の環境基準値並びに規制基準値などは、現在の日本には全く無い状態である。

それで、一般的な電磁波に対する対処方法としての考え方として、電磁波と上手につき合う方法を以下のように推奨している。

その一例としては、私たちの家電製品の中で最も良く使用されているのはテレビであるが、そのテレビから発生する電磁波は平均100mGあるが、家電製品の多くは、前方より後方に強い電磁波が出ているので壁ぎわなどによせて配慮する方法である。電磁波は発生源から離れば大幅に減衰する。だからいちばん有効な対処法は発生源を遠ざかることが必要であると言う大変無責任な対処方法が現在の除去方法である。

#### 5. ミコフ式艦橋療法に関する開発研究

以上の観点から、著者等は日本では基準の無いその無責任な対処方法を解決するために、電磁波除去方法について試行錯誤の研究の結果、著者らの開発した全く新しい世界で初めての製品を開発する事に成功した(詳細は特許の関係上、省略させて頂きま

す)。その開発した商品名を『ミコフ式電磁波除去製品の開発』と命名した。著者らの身を守りDNAまで守る大事な開発製品：人間の最も大事な場所即ち頭：頭脳を大事にする；電磁波防止万能枕：Head Guardを開発した。その製品のカタログとその製品の写真を、写真1に示す。

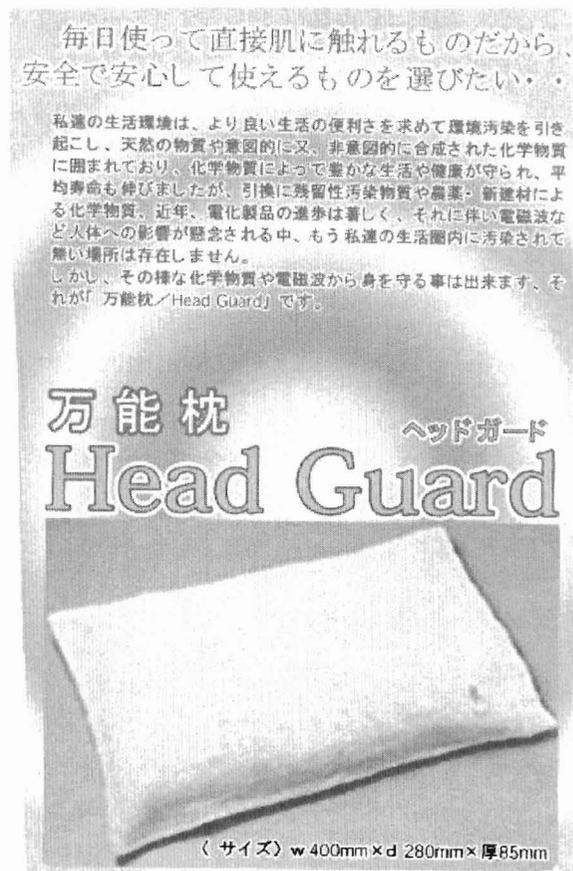


写真1 著者らが開発した電磁波防止万能枕：Head Guard

#### 6. 今後の検討課題

今、エコ環境という観点から、日本国挙げて電気自動車：即ちエコCARが、企業の波となり大きな波紋を投げかけている。今まで述べて来たように、エコCARに一日中、朝から晩まで、運転したらどのように健康にプラスかマイナスに影響するかを考えてみると、頭の痛い思いである。著者らは、このような事実を考察し、色々と試行錯誤しながら研究している今日この頃である。

更に、又医学の分野でも考察する必要がある。日本に於ける電磁波ビジネスの市場の動向と、これからの戦略がある。即ち、それは、病巣発見の新しい検査方法として最新型の磁気を利用して臓器や血管撮影する：3.0 T (テスラー) のMRI (Magnetic Resonance Imaging: 磁気共鳴画像) は、わずか1mm

の動脈瘤などのさまざまな病巣を発見する装置が開発されているが、これらの電磁波に対する対処方法も重大な課題であろう。

以上、述べて来たように、電磁波汚染の中で、著者らの目的であるところの GELENTOLOGY の研究即ち如何に健康で長寿できるかと言う課題について、著者らは、更に挑戦して研究している今日この頃であり、更に詳細な研究は次回に報告する予定である。

## 文 献

- 1) 電磁波市民研究編著：暮らしの中の電磁波測定、2006、緑風出版。
- 2) 石井 猛、木村碩志、延原玲子、岡田敏彦、山村 勲、岡山動物実験動物研究会報、第26号、p 47-51、2010。
- 3) 石井 猛、木村碩志、延原玲子、岡田敏彦、福田星人、同上、第25号、p 50-58、2009。
- 4) 第13回 日韓・遠赤外線 SYMPOSIUM・日本の温泉と健康、P 41-49、2008。韓国・SOUL。
- 5) 石井 猛：温泉の化学的効能、日本物理療法学会報、p 1-15、2007。

- 6) 石井 猛：日本と世界の温泉の有効利用、水、p 23-26、2007。
- 7) 石井 猛：世界の温泉の効用（第2回）、LA VIE、p 40-45、2007。
- 8) 石井 猛：世界の温泉の効用（第1回）、同上、p 84-70、2006。
- 9) 石井 猛他：世にも不思議な水の物語、三有資源研究初版、2006。
- 10) 石井 猛：世界の温泉、生体物理刺激と生体反応、フジテクノ出版、2005。

## 英文題名

Studies on the MIKOF equation environmental therapy by electromagnetic wave for Biology - Living body ( Second Report)

## 英文著者名

Takeshi ISHII, Hiroshi KIMURA,  
Toshihiko OKADA, Reiko NOBUHARA and  
Isao YAMAMURA